

テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次  
ギ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀統制組合ノ經費及過怠金ノ分賦徵收、滯納處分、先取特權ノ順位及  
時効ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依ル

經費ノ分賦及過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟  
(朝鮮ニ在リテハ異議ノ申立、臺灣ニ在リテハ異議ノ申立及訴願ニ限ル)ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十四條 使用料及手数料ノ徵收、米穀ノ寄託其ノ他米穀統制組合ト組合員トノ間ニ於ケ  
ル權利義務ニ關シテハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外  
民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

組合ノ事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、組合ノ業



第二十五條 行政官廳ハ米穀統制組合ニ對シ組合ノ事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、組合ノ業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 行政官廳ハ米穀統制組合ノ決議若ハ選舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議、選舉若ハ當選ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、總代ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 米穀統制組合解散又ハ合併ヲ爲サントスルトキハ總代會ノ議決ヲ經且其ノ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得尙合併ノ場合ニ在リテハ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

米穀統制組合分割ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ準ズル議決及同意ノ外分割ノ各組合ノ組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且定款ヲ議定シ其ノ他



必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條及第十五條第一項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外解散、合併又ハ分割ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 米穀ヲ取扱フ販賣組合(以下米穀販賣組合ト稱ス)ノ存スル市町村ニ於テ特別ノ事情アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ナキ市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

朝鮮及臺灣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀ヲ取扱フ産業組合又ハ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得



第二十九條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ團體員ニ非ズシテ其ノ區域内ニ於テ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體員ニ準ジ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フ團體ハ前項ニ規定スル者ヨリ團體員ノ例ニ準ジ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス  
米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ於ケル前項ノ團體ノ監督及總會又ハ總代會ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十一條 米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ圖リ米穀ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ地方米穀統制組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得



第三十二條 地方米穀統制組合聯合會ハ法人トス

第三十三條 地方米穀統制組合聯合會ノ地區ハ内地ニ在リテハ道府縣、朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州ノ區域ニ依ル

第三十四條 地方米穀統制組合聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十五條 地方米穀統制組合聯合會ノ議員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合又ハ其ノ

事業ヲ行フ團體ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 地方米穀統制組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

評議員 數人



役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依ル會長及副會長ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 第四條第一項、第六條、第八條乃至第十條、第十一條第一項、第十四條乃至第十六條、第十八條第三項乃至第七項、第十九條乃至第二十一條、第二十二條第一項及第二十三條乃至第二十六條ノ規定並ニ第二十七條中解散ニ關スル規定ハ地方米穀統制組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ道府縣ヲ區域トスル米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會(以下道府縣米穀販賣組合聯合會ト稱ス)ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フコトヲ得



第三十九條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ區域内

ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ所屬組合ニ準ジ第三十七條ニ於テ準用スル第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

第四十條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會第四十三條ノ規

定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ

第一項ノ總會又ハ總會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第四十一條 政府ハ每年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀需給推算ヲ行ヒ米穀ノ供給過剩ナリト

認ムルトキハ其ノ過剩數量ノ範圍内ニ於テ定ムル一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於



テ統制セシムルコトヲ得

前項ノ米穀需給推算ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移出數量ノ増加趨勢ノ外ニ米穀管外移出數量、米穀收穫ノ豊凶等ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

第四十二條 前條第一項ノ米穀需給推算及統制スベキ米穀ノ數量竝ニ同條第三項ノ割當ノ割合ニ付テハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム

米穀自治管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 政府ハ第四十一條ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ付定マリタル數量ヲ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ニ對シ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ジ、地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道



府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團

體ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ團體員及第二十九條ニ

規定スル者ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムベキ米穀ノ數量ノ割當ニ付テハ前二項ノ規定ニ關シ勅令ヲ以

テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀統制組合若ハ其ノ事

業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依ル割當ヲ爲サザル場合ニ於テハ政府ハ之ニ代リ割當ヲ爲スコ

トヲ得

第四十五條 前二條ノ割當ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ貯藏

及第四十九條又ハ第五十條ノ規定ニ依リ政



スルコトヲ要ス但シ其ノ貯藏ヲ解除シタルモノ及第四十九條又ハ第五十條ノ規定ニ依リ政府ノ買入ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員ハ第四十三條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ寄託スルコトヲ要ス第二十九條及第三十條ニ規定スル者ニ付亦同ジ

第四十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ第二項ノ場合及勅令ノ定ムル場合ヲ除クノ外第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ爲スコトヲ得ズ  
政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 政府ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於



テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮及臺灣ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ定メタル價格トス

第五十條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニシテ當該米穀年度ヲ越ユルモ其ノ貯藏ヲ解除セラレザルモノニ付買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 命令ヲ以テ指定スル地ニ於ケル米穀取扱業者ハ米穀商統制組合ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ米穀取扱業者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 米穀商統制組合ハ法人トシ第一條ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的トス



第五十三條 第四條第一項、第六條及第八條乃至第二十七條ノ規定ハ米穀商統制組合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀取扱業者ノ組織スル商業組合又ハ重要物産同業組合法若ハ朝鮮重要物産同業組合令ニ依ル同業組合ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀商統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ第四十一條ノ統制ヲ爲スモ米穀ノ供給過剩ニシテ米價ガ米穀統制法ニ基キテ發スル命令ニ定ムル標準最低價格ヲ下ラントスル虞アリト認ムルトキハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合



會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ前條ノ一定數量ヲ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ズ

第四十三條乃至第四十八條及第五十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 政府ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ前條ノ規定ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮米又ハ臺灣米ニ在リテハ勅令ノ定ムル一定價格以內ニ於テ時價ニ準據シテ定メタル價格トス

第五十八條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第十二條、第十八條、第十九條及第三十六條ノ規定(第三十七條又ハ第五十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得



第五十九條 地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定ムル第四十三

條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲スニ必要ナル行爲

ヲ爲サザルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀

商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第

二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザルトキ亦同ジ

第六十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第六十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ

團體第四十六條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキハ

其ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ組合又ハ團體第四十八條第一項ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含

ム)ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ



第六十二條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體、地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員、第二十一條ノ職員、總代、議員、組合員又ハ代議員本法ニ依ル割當又ハ貯藏ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十三條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六十四條 第四十九條、第五十條（第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）及第五十



七條ノ規定ニ依ル米穀ノ買入ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條第一項ニ規定スル一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ當分ノ内同  
條第三項ノ規定ニ拘ラズ内地百分ノ三十五、朝鮮百分ノ四十三、臺灣百分ノ二十二トス但シ政  
府ハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀收穫ノ豊凶等ニ依リ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ

變更スルコトヲ妨ゲズ



米穀自治管理法案理由書

諸般ノ米穀事情及財政上ノ影響ニ鑑ミ内地、朝鮮及臺灣ヲ通ズル過剩米穀ヲ統制スル爲米穀ノ自治管理ヲ行ハシムルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ



閣甲一七二



昭和十一年十一月十六日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和十一年十一月十七日  
昭和一十一年十一月十七日  
昭和一十一年十一月十七日  
昭和一十一年十一月十七日

内閣總理大臣 **近衛**

法制局長官 **松本**

外務大臣

**近衛**

陸軍大臣

**近衛**

文部大臣

**近衛**

逓信大臣

**近衛**

内務大臣

**近衛**

海軍大臣

**近衛**

農林大臣

**近衛**

鐵道大臣

**近衛**

大藏大臣

**近衛**

司法大臣

**近衛**

商工大臣

**近衛**

拓務大臣

**近衛**

未穀自治管理委員會官制起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

追テ未穀自治管理法第四十二條等



五十五條及附則第二項並ニ米穀自  
治管理法施行令第二十八條ノ規定  
ニ依リ米穀自治管理委員會ニ對シ  
テ爲ス諮問案ノ作成ニ付テハ農林  
大臣、拓務大臣、朝鮮總督及臺灣總督  
ノ協議ニ依ルコトヲ要スルモ其ノ  
諮問ノ提出ハ農林大臣及拓務大臣  
ニ於テ之ヲ爲スコトト致度

勅令案

別紙ノ通



朕米穀自治管理委員會官制ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年十二月二十日

内閣總理大臣

勅令第四百七號

米穀自治管理委員會官制

第一條 米穀自治管理委員會ハ内閣



總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣  
 ノ諮問ニ應ジテ未敷自治管理法施  
 行ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス  
 第二條 委員會ハ會長一人副會長二  
 人及委員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組  
 織ス  
 特別ノ事項ヲ調査審議スル為必要  
 アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ  
 得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ



之ニ充フ

副會長ハ農林大臣及拓務大臣ヲ以テ之ニ充フ

委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 内閣書記官長

二 法制局長官

三 内閣調査局長官

四 大藏次官

五 農林次官



六 商工次官

七 拓務次官

八 朝鮮總督府政務總監

九 臺灣總督府總務長官

十 農林省米穀局顧問

十一 學識經驗了者

前項第十號及第十一號、規定、依

ル委員ハ内閣總理大臣、奏請ニ依

リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 臨時委員ハ内閣總理大臣、



奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識  
經驗ナル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之  
ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故ヲ  
ルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル  
副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總  
理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之  
ヲ命ズ



幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整  
理シ臨時命ヲ承ケ未敷自治管理法  
施行ニ關スル事項ヲ調査ス  
第七條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ  
於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從  
事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由

米穀自治管理法、施行ニ伴ヒ米穀自治管  
理委員會ヲ設置スルノ要スルニ依ル



參照

選舉制度調查會官制

昭和十一年七月  
勅令第百八十號  
(總理大臣  
副署)

選舉制度調查會官制

第一條 選舉制度調查會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ衆議院議員選舉其ノ他公ノ選舉ノ制度ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條 選舉制度調查會ハ會長一人、副會長二人及委員三十八人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ  
副會長ハ内務大臣及司法大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ヲ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス  
副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 選舉制度調查會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 選舉制度調查會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



参照

昭和十一年度大藏省所管實行豫算

歳出經常部

第二款内 閣

第九項 米穀自治管理委員會費 七〇〇〇

第三目 雜給及雜費

第一節 給與

四六四五

名稱	人員	一人ノ給額	總員ノ給額
會長手當	一		一六〇
委員同	二〇	一三〇	二四〇〇
臨時委員同	五	一二〇	六〇〇







極秘

(委員)

農林省米穀局顧問

農林省米穀局顧問

全

全

學識經驗了ル者

農林政務次官

正五位勳四等

正四位勳二等

正四位勳四等

正四位勳二等

正三位勳二等

從四位勳四等

從四位勳四等

高田 耘三平

東武

有賀 光豐

山崎 猛

佐藤 寛次

酒井 忠正

郷 誠之助

有働 良夫

加藤 敬三郎

松井 房治郎

保田 次郎

梅原 保

農林省米穀局

(帝國農會長)

(日本商工會議所會頭)

(全國米穀販賣購  
買組合聯合會々長)

(朝鮮銀行總裁)

(朝鮮農會代表)

(臺灣銀行頭取)

(米穀商代表)



(臨時委員)

農林省參與官

(幹事)

內閣書記官

大藏省主計局長

農林省米穀局長

農林書記官

全

商工省商務局長

拓務省殖產局長

朝鮮總督府農林局長

臺灣總督府殖產局長

新田

小林 絹治  
箱田 昌植

稻田 周一  
廣瀨 鐵作

荷見 安

村上 富士太郎

横山 敬教

寺尾 進

萩原 彦三

矢島 杉造

田端 幸三郎



参照

米穀自治管理法

昭和十一年五月  
法律第三十二號

總理、大藏、農林、拓務  
商工大臣副署

第四十一條 政府ハ毎年内地、朝鮮及臺灣ヲ通シ米穀需給推算ヲ行ヒ米穀ノ供給過剩ナリト認ムルトキハ其ノ過剩數量ノ範圍内ニ於テ定ムル一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

前項ノ米穀需給推算ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移出數量ノ増加趨勢ノ外ニ米穀管外移出數量、米穀收穫ノ豐凶等ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

第四十二條 前條第一項ノ米穀需給推算及統制スベキ米穀ノ數量並ニ同條第三項ノ割當ノ割合ニ付テハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム  
米穀自治管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十五條 勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ第四十一條ノ統制ヲ爲スモ米穀ノ供給過剩ニシテ米價ガ米穀統制法ニ基キテ發スル命令ニ定ムル標準最低價格ヲ下ラントスル虞アリト認ムルトキハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十一條第一項ニ規定スル一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ當分ノ内同條第三項ノ規定ニ拘ラズ内地百分ノ三十五、朝鮮百分ノ四十三、臺灣百分ノ二十二トス但シ政府ハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀收穫ノ豐凶等ニ依リ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ變更スルコトヲ妨ゲズ



# 參照

朕米穀自治管理法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ  
公布セシム

## 御名 御璽

昭和十一年九月十五日

内閣總理大臣 廣田 弘毅  
大藏大臣 馬場 鐵一  
農林大臣 島田 俊雄  
拓務大臣 永田秀次郎  
商工大臣 小川郷太郎

勅令第三百二十五號(官報 九月十六日)

### 米穀自治管理法施行令

第二十八條 米穀自治管理法第五十五條ノ  
規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ米穀  
ノ統制ヲ命ズルコトヲ得ルハ米穀統制法  
施行令第十二條第一項但書ノ平均價格ガ  
同令第二條ノ標準最低價格ヲ下ラントス  
ル虞アリト認ムルトキニ限ル

前項ノ場合ニ於ケル内地、朝鮮及臺灣ニ  
對スル割當ノ割合ハ米穀自治管理法附則  
第二項ノ規定ニ依リ定マリタル割合、米  
穀生産高、米穀管外移出高、米穀消費見込  
高其ノ他ノ米穀事情ヲ參酌シ米穀自治管  
理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム



# 參照

## ●米穀統制法施行令

昭和八年十月二十三日  
勅令第二百八十號

朕米穀統制法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏、農林、拓務、外務大臣副署)

### 米穀統制法施行令

第二條 最低價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ノ總平均ヲラシムル計算ノ下ニ命令ノ定ムル所ニ依リ格差ニ從ヒ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム

前項ノ標準最低價格ハ當該年產米穀ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額トシテ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ下値一割ニ相當スル價格ト下値二割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テハ前年十二月定メタル第一項ノ最低價格ニ農林大臣ノ

定ムル金利及保管料ニ相當スル金額ヲ毎月加算シタルモノヲ以テ最低價格トス

四月ヨリ十月迄ノ間ニ於テハ三月ニ於ケル最低價格ヲ以テ最低價格トス

第四項ノ金利ハ米穀證券ノ割引歩合ヲ、同項ノ保管料ハ農業倉庫ノ保管料ヲ參酌シテ之ヲ定ム



第十二條

米穀統制法第四條ノ規定ニ依リ買入レタル米穀ノ數量ニ相當スル米穀ハ當該米穀年度内ニ於テ賣渡ヲ爲スモノトス但シ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スル米穀ノ農林大臣ノ指定スル市場ニ於ケル平均價格ガ標準最低價格ノ上値五分ニ相當スル價格以下ニ在ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ平均價格ハ前項ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタルモノノ一石當平均取引價格ノ總和ヲ平均シテ之ヲ定ム

前項ノ一石當平均取引價格ハ各銘柄及等級別ニ其ノ取引總金額ヲ取引總數量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

日本標準規格B4列(十一行全)(木村納)



一取締役  
北濱昭  
右昭和十  
株式會  
商號



閣甲第一七三號

案起

昭和十一年十一月五日

裁可昭和十一年十一月五日施行

昭和十一年十一月五日

內閣總理大臣

三

內閣書記官長



內閣書記官



昭和十一年十一月二十六日

內閣書記官長

法制局長官宛

依命通牒

重要肥料業統制法ノ規定ニ依リ重要肥料業  
委員會設置ノ必要有之候ニ付別紙官制案ノ







六六

勅令第

號

重要肥料業委員會官制

第一條 重要肥料業委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ商工大臣及

農林大臣ノ諮問ニ應ジテ重要肥料業統制法第十一條第三項ノ規定

ニ依ル處分又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル制限其ノ他同法施行ニ

關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ前項ニ掲グル事項ノ外重要肥



料業ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ重要肥料業ノ統制ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ建  
議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人、副會長二人及委員二十人以内ヲ以テ之

ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ



副會長ハ商工大臣及農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨ  
リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年ト  
ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨



ゲズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

會長及副會長共ニ事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル委員會長ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ



之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



參照

重  
要  
肥  
料  
業  
統  
制  
法

(昭和十一年五月二十九日公布)



朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要肥料業統制法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム

御名 御璽

昭和十一年五月二十八日

内閣總理大臣	廣田	弘毅
大藏大臣	馬場	鎧一
農林大臣	島田	俊雄
商工大臣	小川	郷太郎



法律第三十號

重要肥料業統制法

第一條 本法ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖リ肥料製造業及

農業經營ノ改善發達ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ノ適用ヲ受クル肥料ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ於テ肥料製造業ト稱スルハ命令ノ定ムル所ニ依リ肥料ヲ製造スル事業ヲ謂フ

第三條 肥料製造業者ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖リ肥料



製造業ノ改善發達ヲ期スル爲政府ノ認可ヲ受ケ肥料ノ種類別ニ肥料製造業組合ヲ設立スルコトヲ得

第四條 肥料製造業者肥料製造業組合ヲ設立セザル場合ニ於テ政府必要アリト認ムルトキハ肥料製造業者ニ對シ肥料製造業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者命令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得



第五條 肥料製造業組合ハ法人トス

肥料製造業組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條 肥料製造業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 肥料ノ製造總數量及各組合員ニ對スル其ノ割當ノ決定、肥料ノ販賣價格ノ決定其ノ他肥料ノ生産又ハ販賣ニ關スル決定

二 組合員ノ委託ニ依ル肥料ノ販賣但シ前號ノ決定ヲ實行スル爲  
必要アル場合ニ限ル

三 組合員ノ肥料製造業ニ必要ナル物ノ供給



四 其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事業

第七條 肥料製造業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

肥料製造業組合ノ設立アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

肥料製造業組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ



第八條 肥料製造業組合ハ肥料ノ種類毎ニ一箇トス

第九條 肥料製造業組合ニハ所得税及營業收益税ヲ課セズ

第十條 肥料製造業組合ノ設立アリタルトキハ其ノ種類ノ肥料製造

業者ハ其ノ組合ノ組合員トス

肥料製造業組合ハ政府ノ認可ヲ受ケ本法施行地域外ニ於テ肥料製

造業ヲ營ム者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第十一條 肥料製造業組合第六條第一號ノ決定ヲ爲シタルトキハ命

令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施前豫メ之ヲ政府ニ届出デ其ノ承認ヲ



受クベシ

肥料製造業組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依ル届出前ニ於テハ其ノ決定ニ基キ肥料ノ生産又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ届出後命令ノ定ムル期間内亦同ジ

政府肥料ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ第一項ノ決定ノ全部又ハ一部ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十二條 肥料製造業者又ハ肥料製造業組合ハ政府ノ許可ヲ受クル



ニ非ザレバ肥料ノ生産・販賣・輸出・輸入・移出又ハ移入ニ關シ  
統制協定ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 肥料製造業組合肥料ノ製造總數量及各組合員ニ對スル其  
ノ割當ノ決定又ハ肥料ノ販賣價格ノ決定ヲ爲サザル場合ニ於テ政  
府公益上必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ爲スベキコトヲ命ズ  
ルコトヲ得

第十四條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ肥料製造業組合ノ組  
合員ニ對シ肥料ノ生産又ハ販賣ニ關スル組合ノ決定ニ從フベキコ



トヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ



第十六條 肥料製造業組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定  
款若ハ政府ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ  
虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 組合ノ事業ノ停止

四 組合ノ解散

第十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外肥料製造業組合ノ設立、



登記、組織、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ  
勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ期間ヲ定メ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第十九條 第十一條第三項ノ規定ニ依ル處分、前條ノ規定ニ依ル制  
限其ノ他本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ゼシムル  
爲重要肥料業委員會ヲ置ク

重要肥料業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十二條ノ規定ニ違反シ政府ノ許可ヲ受ケズシテ統制協定ヲ

爲シタル者

三 第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ爲

シタル者

前項第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥料ハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ



其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵  
スルコトヲ得

第二十一條 第十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 正當ノ事由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サ  
ズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ假証ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ其ノ他  
政府ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行



ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰前項ニ同ジ

第二十四條 肥料製造業組合、肥料製造業組合ノ組合員、肥料製造

業者其ノ他肥料ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、

雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ



出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰

則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ  
執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理  
人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成  
年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 肥料製造業組合第十一條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲

サザルトキハ組合ノ役員ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス



第二十七條 肥料製造業組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法第十九條第七號中「又ハ輸出組合聯合會」ヲ「輸出組合



聯合會又ハ肥料製造業組合」ニ、「又ハ輸出組合法」ヲ「輸出組  
合法又ハ重要肥料業統制法」ニ改ム



閣甲一七六



十一月二十八日



昭和十一年十一月二十八日

内閣書記官長



内閣書記官



内閣總理大臣 **近**

法制局長官



外務大臣

**近**

陸軍大臣

**近**

文部大臣

**重**

逓信大臣

**近**

内務大臣

**近**

海軍大臣

**近**

農林大臣

**近**

鐵道大臣

**近**

大藏大臣

**近**

司法大臣

**近**

商工大臣

**近**

拓務大臣

**近**

重要肥料業委員會官制

命ニ依リ

起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト







朕重要肥料業委員會官制ヲ裁  
可ニ茲ニ之ヲ公布セヨ

御名會御璽

昭和十一年十二月二十四日

內閣總理大臣

勅令第四百五十二號

重要肥料業委員會官制

第一條 重要肥料業委員會ハ

內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ



商工大臣及農林大臣、諮問

二應之テ重要肥料業統制法

第十一條第三項、規定ニ依

ル處分、同法第十八條、規定

ニ依ル制限其、他同法施行

ニ關スル重要事項ヲ調査審

議ス

委員會ハ關係各大臣、諮問

ニ應之テ前項ニ掲グル事項

ノ外重要肥料業ノ統制ニ關



凡重要事項ヲ調査審議ス  
委員會ハ重要肥料業ノ統制  
ニ關スル重要事項ニ付關係  
各大臣ニ建議スルヲ得

第二條 委員會ハ會長一人副  
會長二人及委員二十人以内  
ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要ナル場合  
ニ於テハ臨時委員ヲ置ク

第三條 委員會ハ...



第三條 會長ハ内閣總理大臣  
ヲ以テ之ニ充ツ  
副會長ハ商工大臣及農林大  
臣ヲ以テ之ニ充ツ  
委員及臨時委員ハ内閣總理  
大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グ  
ル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之  
ヲ命ズ  
委員關係各廳高等官  
ニシテ學識經驗アル者



前項第二號ニ掲グル者、中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 空會長ハ會務ヲ總理ス副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長ノ事故アル下キハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス會



第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク

内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ

内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶

務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク

内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶

務ニ従事ス

附則ニ依リ



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行  
ス



理由

重要肥料業統制法ノ施行ニ伴  
ヒ同法施行ニ關スル重要事項  
ニ付政府ノ諮問ニ應ゼシムル  
爲重要肥料業委員會ヲ設置ス  
ルノ要アリニ依ル



奉 照

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要肥料業統制  
法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年五月二十八日

- 内閣總理大臣 廣田 弘毅
- 大藏 大臣 馬場 鐵一
- 農林 大臣 島田 俊雄
- 商工 大臣 小川 郷太郎

法律第三十號 (官報 五月二十九日)

重要肥料業統制法

第一條 本法ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ  
公正ヲ圖リ肥料製造業及農業經營ノ改善  
發達ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ノ適用ヲ受クル肥料ノ種類ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ於テ肥料製造業ト稱スルハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ肥料ヲ製造スル事業ヲ謂  
フ

第三條 肥料製造業者ハ肥料ノ需給ノ圓滑  
及價格ノ公正ヲ圖リ肥料製造業ノ改善發  
達ヲ期スル爲政府ノ認可ヲ受ケ肥料ノ種

類別ニ肥料製造業組合ヲ設立スルコトヲ  
得

第四條 肥料製造業者肥料製造業組合ヲ設  
立セザル場合ニ於テ政府必要アリト認ム  
ルトキハ肥料製造業者ニ對シ肥料製造業  
組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者  
命令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ認可ヲ申請  
セザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設  
立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 肥料製造業組合ハ法人トス  
肥料製造業組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ  
事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條 肥料製造業組合ハ左ノ事業ヲ行フ  
コトヲ得

- 一 肥料ノ製造總數量及各組合員ニ對ス  
ル其ノ割當ノ決定、肥料ノ販賣價格ノ  
決定其ノ他肥料ノ生産又ハ販賣ニ關ス  
ル決定
- 二 組合員ノ委託ニ依ル肥料ノ販賣但シ  
前號ノ決定ヲ實行スル爲必要アル場合  
ニ限ル

三 組合員ノ肥料製造業ニ必要ナル物ノ  
供給

四 其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事  
業

第七條 肥料製造業組合ハ設立ノ認可アリ  
タル時又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ定  
款ノ作成アリタル時成立ス

肥料製造業組合ノ設立アリタルトキハ主  
タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ  
爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジ  
タルトキ亦同ジ

肥料製造業組合ノ設立又ハ登記シタル事  
項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之  
ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 肥料製造業組合ハ肥料ノ種類毎ニ  
一箇トス

第九條 肥料製造業組合ニハ所得稅及營業  
收益稅ヲ課セズ

第十條 肥料製造業組合ノ設立アリタルト  
キハ其ノ種類ノ肥料製造業者ハ其ノ組合  
ノ組合員トス



肥料製造業組合ハ政府ノ認可ヲ受ケ本法施行地域外ニ於テ肥料製造業ヲ営ム者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第十一條 肥料製造業組合第六條第一號ノ決定ヲ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施前豫メ之ヲ政府ニ届出デ其ノ承認ヲ受クベシ

肥料製造業組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依ル届出前ニ於テハ其ノ決定ニ基キ肥料ノ生産又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ届出後命令ノ定ムル期間内亦同ジ

政府肥料ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ第一項ノ決定ノ全部又ハ一部ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十二條 肥料製造業者又ハ肥料製造業組合ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ肥料ノ生産、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ニ關シ統制協定ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 肥料製造業組合肥料ノ製造總數量及各組合員ニ對スル其ノ割當ノ決定又ハ肥料ノ販賣價格ノ決定ヲ爲サザル場合

ニ於テ政府公益上必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ肥料製造業組合ノ組合員ニ對シ肥料ノ生産又ハ販賣ニ關スル組合ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條 肥料製造業組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解任
- 三 組合ノ事業ノ停止
- 四 組合ノ解散

第十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外肥料製造業組合ノ設立、登記、組織、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第十九條 第十一條第三項ノ規定ニ依ル處分、前條ノ規定ニ依ル制限其ノ他本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ゼシムル爲重要肥料業委員會ヲ置ク

重要肥料業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者



工 第十二條ノ規定ニ違反シ政府ノ許可ヲ受ケズシテ統制協定ヲ爲シタル者

三 第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ爲シタル者

前項第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥料ハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第二十一條 第十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 正當ノ事由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ前項ニ同シ

第二十四條 肥料製造業組合、肥料製造業組合ノ組合員、肥料製造業者其ノ他肥料ニ關スル業者爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 肥料製造業組合第十一條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザルトキハ組合ノ役員ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十七條 肥料製造業組合法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
登録稅法第十九條第七號中「又ハ輸出組合聯合會」ヲ「輸出組合聯合會又ハ肥料製造業組合」ニ、又ハ輸出組合法「ヲ」輸出組合法又ハ重要肥料業統制法ニ改ム



參照

朕米穀自治管理委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年十一月二十日

內閣總理大臣 廣田 弘毅

勅令第四百七號

米穀自治管理委員會官制

第一條 米穀自治管理委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ米穀自治管理法施行ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人、副會長二人及委員二十一人以內ヲ以テ之ヲ組織ス特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ副會長ハ農林大臣及拓務大臣ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 內閣書記官長
- 二 法制局長官
- 三 內閣調査局長官

四 大藏次官

五 農林次官

六 商工次官

七 拓務次官

八 朝鮮總督府政務總監

九 臺灣總督府總務長官

十 農林省米穀局顧問

十一 學識經驗アル者

前項第十號及第十一號ノ規定ニ依ル委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副會長長其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣

米穀自治管理委員會官制(十一月二十日)



ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨  
時命ヲ承ケ米穀自治管理法施行ニ關スル  
事項ヲ調査ス

第七條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之  
ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



極秘

参照

昭和十一年度大藏省所管實行豫算

歳出臨時部

第二款 調査費

第八項 肥料業統制委員會諸費 九〇〇〇円

第三目 雜給及雜費

第一節 給與

四二八六円

内譯左ノ如シ

姓名	稱	人員	一人ノ給額	總員ノ給額
會長	手當	一	一六〇円	一六〇円
委員	同	二〇	一三〇	二六〇〇

日本經濟學會編輯部

城戸 11.11.26



臨時委員同	五	一二〇	六〇〇
幹事同	五	一二〇	六〇〇
書記同	五	七五	三七五
官吏等慰勞金			一五一

附  
録

日本標準規格B4判(十一行全)(木村納)





# 極秘

重要肥料業委員會構成案 (商工省)

(昭和二十一年三月)

生産者代表

會長

内閣總理大臣

森 嘉 稔

副會長

商 工 灰 夫 素 臣

小 林 正 直

同 員

農 林 大 臣

石 川 一 郎

委 員

消費者代表

二〇人

内閣調査局長官

井 忠 一 正

農 林 政 務 次 官

千 石 興 太 郎

農 林 村 業 次 官

石 黒 忠 三 篤

農 務 院 局 長

山 崎 隆 吉

商 工 政 務 次 官

三 人

商 工 學 業 次 官

三 一 二

工 務 局 長

土 方 成 美

橋 本 傳 左 衛 門

商 工 省



商  
工  
省

商  
工  
省

臨時委員 拓務次官

生産者代表

大 硫 省 主 務 局 長

石 灰 窒 素 場 長

過 工 機 酸 廠 所 長

消費者代表

帝 國 農 會 府 長 伯 備 酒

産 業 中 央 會 議 者

貴族院議員

衆議院議員

其内他國學識經驗者官

農 林 書 記 官

商 工 書 記 官

七人

三

森 一 直

小 林 正

石 川 一 郎

井 忠 正

千 石 興 太 郎

農 村 更 生 協 會 總 務 長 石

黑 龍 和 忠 郎

山 脇 延 吉

三人

二

二





主 監 審 判 官  
法 務 省 官

商 工 省

商 工 省

臨時委員

對滿事務局次長

大藏省主稅局長

農事試驗場長

東京工業試驗所長

朝鮮總督府殖產局長  
又朝鮮總督府農林局長

學識經驗者

全日本肥料團體聯合會  
縣農會

鈴鹿和三郎  
山脇延吉

七人

幹事

內閣書記官

農林書記官

商工書記官

三人

一

一

一

二

一

一

一

一

一

內



内閣閣甲第一七三號

昭和十一年十一月二十六日

重要肥料業委員會 内閣書記官長 藤 沼 庄 平



及

法制局長官 間次 應田 大 三 郎 肥料業統制法第十一條第三項ノ規定

ニ依ル處分又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル制限其ノ他同法施行ニ

關スル重要依命ヲ通牒審議ス

重要肥料業統制法人規定ニ依リ重要肥料業委員會設置ノ必要有之候ニ付  
別紙官制案ノ趣旨ニ依リ勅令案起案上申相成度

委員會ハ重要肥料業ノ統制ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ建  
議スルコトヲ得  
委員會ハ會長一人、副會長二人及委員二十人以内ヲ以テ之

内閣



昭和十一年十一月二十六日  
内閣閣甲第一十三號

勅令第 號 案

重要肥料業委員會官制

第一條 重要肥料業委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ商工大臣及農林大臣ノ諮問ニ應ジテ重要肥料業統制法第十一條第三項ノ規定ニ依ル處分又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル制限其ノ他同法施行ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ前項ニ掲グル事項ノ外重要肥料業ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ重要肥料業ノ統制ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人、副會長二人及委員二十人以内ヲ以テ之

内閣



ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ商工大臣及農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名ス



第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



閣甲第一〇號

起案 昭和十一年二月十二日

我 昭 和 年 月 日 施  
定 昭 和 十 一 年 二 月 十 九 日 行

昭和十一年五月三日

川島

佐野

内閣書記官長

内閣總理大臣

内閣書記官長

福白

滿洲電信電話株式會社監督ニ関スル内閣總理大臣處理事項中對滿事務局總裁ノ代決事項等ノ件別紙ノ通決定相成然ルベシ

通牒案

昭和十一年三月三日

内閣總理大臣



對滿事務局總裁宛

通牒

滿洲電信電話株式會社、監督ニ関スル事項中  
貴官代決事項等、件別紙、通相定候條御了  
知相成度



滿洲電信電話株式會社監督ニ關スル代決事項等ノ件

第一條 滿洲電信電話株式會社ノ業務監督ニ關シ對滿事務局總裁ハ

左ノ事項ニ付テハ之ヲ代決シ內閣總理大臣（以下大臣ト稱ス）ノ名ヲ以テ施行スルコトヲ得

一 滿洲電信電話株式會社業務監督規程（以下電電監督規程ト稱

ス）第一條第三號ニ依ル會社職制ノ變更ノ認可

二 電電監督規程第一條第七號ニ依ル社債ノ募集及株金拂込ノ認

可

三 電電監督規程第一條第十四號ニ依ル顧問ノ選任又ハ解任ノ認

可

四 滿洲電信電話株式會社事務規程第二條ニ依リ大臣ニ稟申アリ



タル事項但シ電電監督規程第二條第六號及同第七號ノ投資及債  
務保證ニ關シテハ其ノ額百萬圓以上ノモノヲ除ク

第二條 前條ノ代決事項ト雖其ノ事態稍重キモノハ大臣ノ決裁ヲ經

ベシ

以上



# 參照

## 滿洲電信電話株式會社業務監督規程

(昭和十一年三月三日命令)

第一條 滿洲電信電話株式會社(以下會社ト稱ス)ハ左ノ場合ニ於テハ內閣總理大臣(以下大臣ト稱ス)ノ認可ヲ受クベシ

一 資本ヲ増減セントスルトキ(昭和八年條約第一號滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社設立ニ關スル協定(以下協定ト稱ス)第二條)

二 定款ヲ變更セントスルトキ(協定第十二條)

三 職制ヲ全般的又ハ左ノ事項ニ關シ變更セントスルトキ

(イ) 重役ノ職責

(ロ) 部局又ハ總裁直轄箇所ノ設置、廢止又ハ其ノ主掌事項

四 附帶事業ヲ營マントスルトキ(昭和八年指令殖交祕第二九九



號設立許可書附款命令第一條第二項)

五 (一) 取締役又ハ監査役ヲ選任又ハ解任セントスルトキ (協定第十  
二條)

六 總裁、副總裁又ハ監事ヲ選任又ハ解任セントスルトキ

七 社債ヲ募集セントスルトキ (協定第十二條) 又ハ株金ノ拂込  
ヲ爲サシメントスルトキ

八 會社ノ合併又ハ解散ノ決議ヲ爲サントスルトキ (協定第十二  
條)

九 每營業年度ノ事業計畫 (協定第十二條)、事業費及營業收支  
豫算ヲ定メ又ハ之ヲ變更セントスルトキ但シ第二條第四號ニ該  
當スルモノヲ除ク

十 每營業年度ノ資金計畫ヲ定メ又ハ之ヲ變更セントスルトキ



十一 每營業年度ノ決算及利益金ノ處分ヲ決定セントスルトキ（利益金ノ處分ノミニ關シ協定第十二條）  
十二 電氣通信ニ關スル基本的ノ業務協定ヲ締結シ又之ヲ變更セントスルトキ（協定第十二條）

十三 時價五十萬圓以上ノ電氣通信施設若ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ヲ讓渡セントスルトキ（協定第十二條）

十四 顧問ヲ選任シ又ハ之ヲ解任セントスルトキ  
每營業年度ノ事業費豫算ヲ翌年度ニ繰越シ若ハ營業收支豫算ヲ變更シ又ハ之ニ基キ資金計畫ヲ變更セントスル場合ニ於テ已ムヲ得ザル事情ニ依リ前項第九號又ハ第十號ニ依ル認可ヲ受クルコト能ハザリシトキハ當該年度ノ決算ノ認可ヲ以テ其ノ認可アリタルモノト看做ス

ハト看做ス



第二條 會社ハ左ノ場合ニ於テハ滿洲國駐劄特命全權大使（以下大使ト稱ス）ノ認可ヲ受クベシ

一 職制ニ社員制又ハ社員給與ニ關スル規定ヲ制定シ又ハ之ヲ變更セントスルトキ但シ前條第三號ニ該當スルモノヲ除ク

二 會計ニ關スル規定ヲ制定シ又ハ之ヲ變更セントスルトキ

三 料金其ノ他營業ニ關スル規定ヲ制定シ又ハ之ヲ變更セントスルトキ（協定第十二條）

四 事業費各款ノ金額ヲ彼此流用シ又ハ豫備費ヲ以テ豫算外ノ費途ニ充テントスルトキ（協定第十二條）

五 電氣通信施設若ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ヲ讓渡セントスルトキ但シ前條第十三號ニ該當スルモノヲ除ク（協定第十二條）

六 會社外ノ事業ニ對シ投資（貸付、株式引受等）セントスルト

キ

キ

キ



二キ

- 七 他會社其他各種企業者ニ對シ債務ノ保證ヲ爲サントスルトキ
- 八 減價償却ニ關スル規定ヲ制定シ又ハ之ヲ變更セントスルトキ
- 九 取締役及監査役ノ受クベキ報酬及手當ヲ定メ又ハ之ヲ變更セントスルトキ
- 十 取締役及監査役ノ退職手當ノ標準額ヲ定メ又ハ之ヲ變更セントスルトキ
- 十一 電氣通信ニ關スル業務協定（協定第十二條）又ハ營業等ニ關スル重要ナル契約ヲ締結シ又ハ之ヲ變更セントスルトキ但シ前條第十二號ニ該當スルモノヲ除ク

第三條 總裁、副總裁及理事他ノ職務又ハ商業ニ從事セントスルトキハ大使ノ認可ヲ受クベシ



第四條 入會社ハ左ノ場合ニ於テハ速ニ大使ニ之ヲ届出ヅベシ

一 總裁及副總裁事故アリテ理事總裁ノ職務ヲ代理スル必要アル

トキ

二 登記ヲ爲シタルトキ

三 株主總會ノ日時及場所ノ通知ヲ株主ニ發セントスルトキ

四 株主總會決議ヲ爲シタルトキ

五 營業上ノ重大ナル事故アリタルトキ

前項第一號ノ届出ニハ事由ヲ具シ、第二號ノ届出ニハ登記抄本ヲ

第三號ノ届出ニハ議案ヲ添附スベシ

第五條 會社ハ大使ニ左ノ報告ヲ爲スベシ

一 總勘定月表

二 事業費月表



三 營業收支月表

前項ノ報告ハ翌月中（已ムヲ得ザル場合ハ翌々月末迄）ニ之ヲ提出スベシ

第六條 大臣ニ提出スベキ書類ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總テ大使ヲ經由スベシ但シ第一條第七號ニ依ル社債募集認可申請ニ關スル書類ハ直接之ヲ大臣ニ提出スルコトヲ得

附 則

昭和八年九月一日殖交祕第三九〇號及昭和九年二月十五日殖交祕第三二號ハ之ヲ廢止ス



滿洲電信電話株式會社ニ關スル事務規程

（昭和十一年三月三日通牒）

第一條 滿洲電信電話株式會社（以下會社ト稱ス）ノ業務監督ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外滿洲電信電話株式會社業務監督規程ニ依リテハ別ニ定ムルモノノ外滿洲電信電話株式會社業務監督規程ニ依ルベシ

第二條 會社ヲ申請ニ對シ滿洲國駐劄特命全權大使（以下大使ト稱ス）認可ヲ爲サントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項アルトキハ意見ヲ具シ其ノ申請書寫ヲ添ヘ豫メ內閣總理大臣（以下大臣ト稱ス）ニ稟申シテ其ノ指示ヲ受クベシ

一 會社ガ電電監督規程第二條第一號ニ依リ社員給與規程ヲ制定シ又ハ之ヲ變更セントスル場合ニ於テ會社ノ豫算若ハ決算ニ重



大ナル影響ヲ及ボス事項アルトキ又ハ其ノ制定若ハ變更ガ制度

一ノ重大ナル更改ヲ來スモノナルトキニ

二電電監督規程第二條第六號乃至第十號ノ規定ニ依リ認可ヲ爲

テサントスルトキ

三其ノ他會社ノ經理ニ重大ナル關係アルモノナルトキ

第三條 會社ヨリ提出シタル大臣宛申請書類ハ大使意見ヲ附シテ之

ヲ進達スベシ

第四條 昭和八年條約第一號滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社設立ニ

關スル協定第十一條第三項ノ規定ニ依ル處分ニ付テハ大使意見ヲ

具シテ大臣ニ稟申スベシ

第五條 電電監督規程ニ依リ會社ヨリ届出又ハ報告アリタルトキハ



其ノ寫一部ヲ其ノ都度大臣ニ送付スベシ

大使ニ於テ認可シタル事項ニ付テハ其ノ書類ノ寫ニ指令ノ寫ヲ添ヘ其ノ都度大臣ニ報告スベシ

第六條 會社監督上許可事項、認可事項又ハ届出及報告事項等ヲ追加シ又ハ改廢セントスル場合ニ於テハ豫メ事由ヲ具シ大臣ニ稟申スベシ

第七條 書類ヲ大臣ニ進達シ又ハ送付スル場合ニ於テハ總テ對滿事務局宛ニ之ヲ爲スベシ

第八條 大臣ヨリ會社ニ對シテ爲ス命令、通牒及指令等ハ總テ大使ヲ經由シテ之ヲ交付ス但シ電電監督規程第一條第七號ノ社債募集ニ對スル指令ハ之ヲ直接會社ニ交付スルコトアルベシ







# 參照

殖交祕第三九〇號

滿洲電信電話株式會社

第一條 其ノ社ハ昭和八年條約第一號滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定ニ規定スルモノノ外左記事項ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ

一 總裁、副總裁、理事及監事ノ選任又ハ解任

二 取締役及監査役ノ受クベキ報酬及手當

三 每營業年度ノ收支豫算決算

四 株金ノ拂込

五 組織、會計及營業ニ關スル規定ノ制定又ハ變更

第二條 其ノ社ノ取締役及監査役ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ